

人類学演習Ⅱ 談話会

日時:1月14日(金) 16:30~18:00

場所:理学部2号館323号室

<講演者>

藤田 尚先生
(新潟県立看護大学)

<講演テーマ>

韓国禮安里遺跡出土人骨の齲齒率から農耕の伝播を考える

<要旨>

韓国の禮安里人骨は、4-7世紀の人骨とされ、北部九州や山口県出土の渡来系弥生時代人との形態上の類似点が指摘されてきた。しかしながら禮安里人骨の齲蝕の報告はされていないことから、同人骨の齲蝕を調査した。禮安里人骨の全体の齲齒率は8.1%であり、日本の渡来系弥生時代人よりはるかに低く、日本の縄文時代人とほぼ等しい齲齒率である。時代的には農耕稲作が行われていたが、臨海域の古墳であるため、埋葬者の食性に何らかの特性があったのかもしれない。時代は遡るが、日本の弥生時代に相当する靑島遺跡出土人骨の齲齒率も低い。このことは、農耕が単純に齲齒率を増加させたとする考え方に疑問を呈するものであり、日本でも弥生時代に農耕が伝わったとされるが、その拡がり方には多くのバリエーションがあったと考えられる。また、上顎歯の齲齒率が下顎歯の齲齒率を有意に上回り、日本の縄文時代人や江戸時代人とは異なる。性差については、同世代の男女間での齲齒率の有意差は認められないが、年齢差については、男女とも壮年個体より熟年および老年個体の齲齒率が有意に高く、加齢による齲齒率の上昇が認められた。齲蝕の発症部位では、NRASが各歯種において最も頻度が高く、全体では76%を占めた。発症部位を、歯冠部齲蝕と根面齲蝕に大別すると、根面齲蝕の頻度は圧倒的に根面齲蝕が有意に高かった。禮安里人骨に関しても、現代人と比較すると生理的加齢速度が速く、歯周病を比較的若い世代から患っていた。その結果として歯槽骨の退縮によるセメント質の口腔内露出による根面齲蝕の多発を引き起こしたと考えられる。いくつかの国で報告されているように、根面齲蝕は古人骨に発症頻度の高い齲蝕の病態であり、かつ、古代人は現代の高齢者型の齲蝕を患っていたともいえる。

今後の予定

1月21日 諏訪研 久保さん

担当:木花 牧雄(植田研)